

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時： 年 月 日 午前・午後 時
調査者氏名：

1) 建築物の概要

1. 建築物の所有者：
2. 建築物所在地： 長泉町
3. 階数：

2) 前提条件の確認(いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	

※ 2項目のうち両方又はどちらか一方に該当しない場合は本診断の対象外となります

3) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

4) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

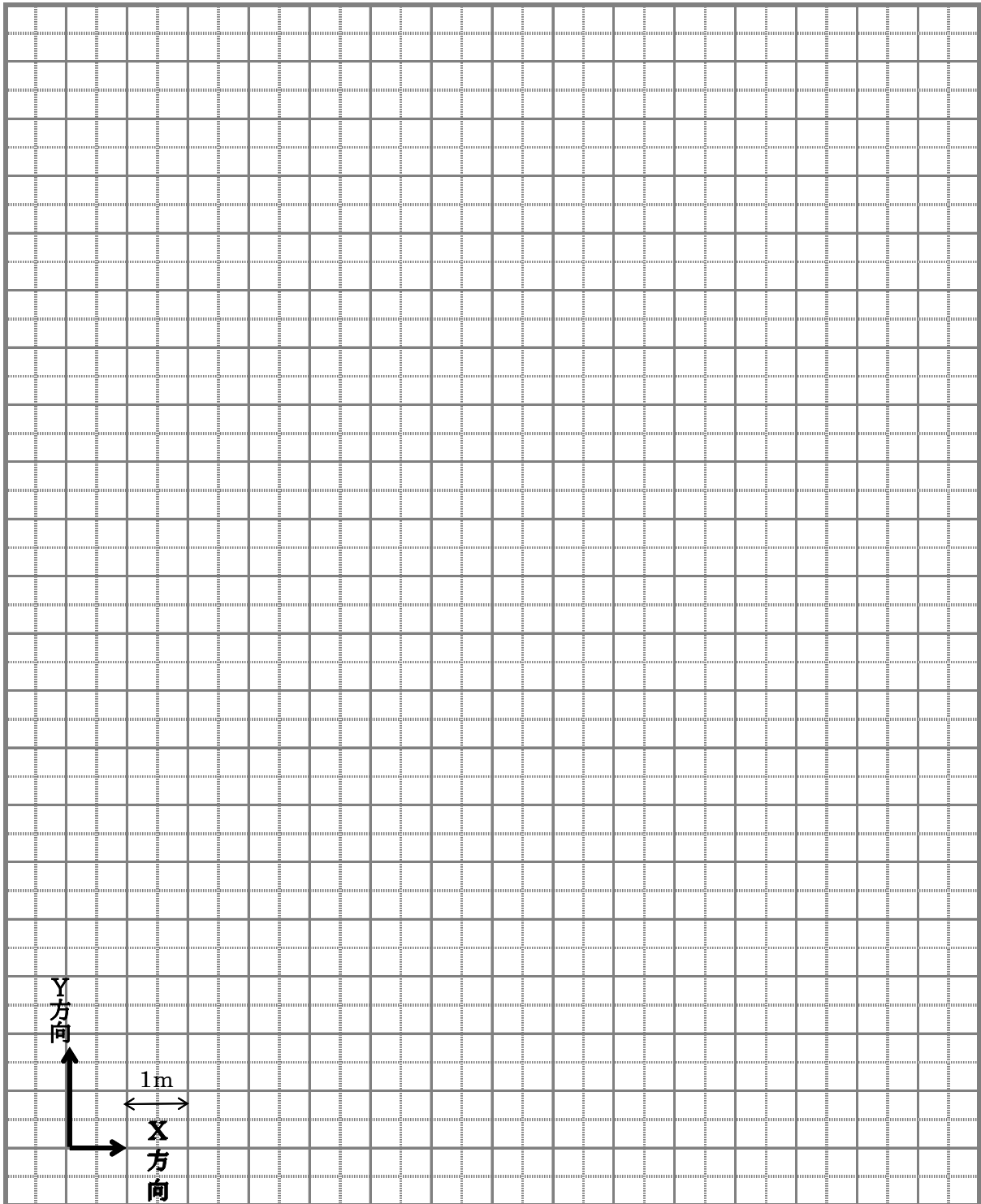
※ 「3)一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」において1 つ以上の該当がある場合は記入不要

※ この計算は2 階建て以下の住宅の場合に実施可能、3 階建て以上の住宅は他の方法で診断してください

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建物面積(m ²)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X					
Y					

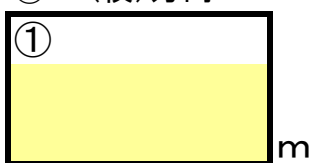
IV)壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

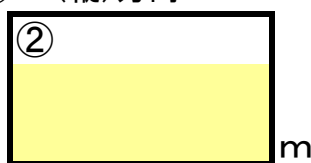


(イ) 壁の長さの合計

① X(横)方向



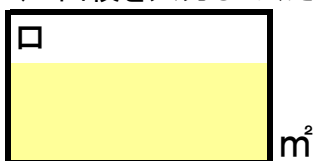
② Y(縦)方向



①②のうち小さいほうを記入してください。



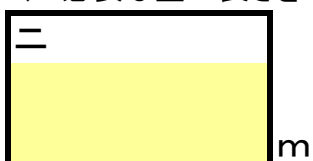
(ロ) 面積を入力してください



(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ



(ニ) 必要な壁の長さを下の表から該当するものを選んで記入してください。



下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数 屋根の種類	平屋	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板 葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合



ホ<0.8の時
倒壊の危険性
あり

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

調査日時: 令和7年4月1日 午前・(午後) 1時
 調査者氏名: 長泉 一郎

I) 建築物の概要

1. 建築物の所有者: 長泉 二郎
2. 建築物所在地: 長泉町 中土狩828
3. 階数: 1階建て

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

チェック欄

木造住宅である	該当
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	該当

※ 2項目のうち両方又はどちらか一方に該当しない場合は本診断の対象外となります

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目

(1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	
老朽・腐朽	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	該当
	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

IV) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

※ 「III)一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」において1 つ以上の該当がある場合は記入不要

※ この計算は2 階建て以下の住宅の場合に実施可能、3 階建て以上の住宅は他の方法で診断してください

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建物面積(m ²)	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X	18.5	72.00	0.26	0.27	0.96
Y	15.0	72.00	0.21	0.27	0.77

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目(例示)

箇所	項目	例
建物全体	全体又は一部に崩壊がある	・建物全体が崩壊・落階している ・屋根や外壁の一部が脱落している ・柱が折れている ・外壁に亀裂や穴が生じている
	全体又は一部に変形がある	・建物全体が傾いている ・棟がうねっている ・軒先が垂れている ・柱や壁が傾いている ・床に起伏がある
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	・土地の沈下や建物の沈下が見られる
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	・基礎が玉石、石積み、ブロック、レンガ等である
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	・基礎がひび割れている ・基礎の一部が欠けている ・鉄筋の露出や鉄筋のさび汁が見られる
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	・部材が食害されている(特に床下や小屋裏等の暗くて多湿な箇所を確認) ・白蟻の巣がある ・部材に虫がわいている
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	・部材が湿気等により腐っている ・部材にカビが生えている
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	・部材に穴がある ・部材が欠けている ・部材に亀裂が見られる

※上記の項目において、該当する項目が1 つ以上ある場合、倒壊の危険性があると判断されます。

調査した日時と、調査を行った方の氏名を記入してください。

建築物の所有者、所在地、階数を記入してください。
 ※建築物の所在地は固定資産(家屋)評価証明書等の公的証明書と相違ないように記入してください。

前提条件に該当することを確認し、「該当」と記入してください。

各項目について敷地や建築物等の状況を確認して該当する場合は、「該当」と記入。
 あくまでも目安になりますが、各項目の例示については下記の表をご参考になしてください。
 該当する項目についてはその状況がわかる写真を提出してください。

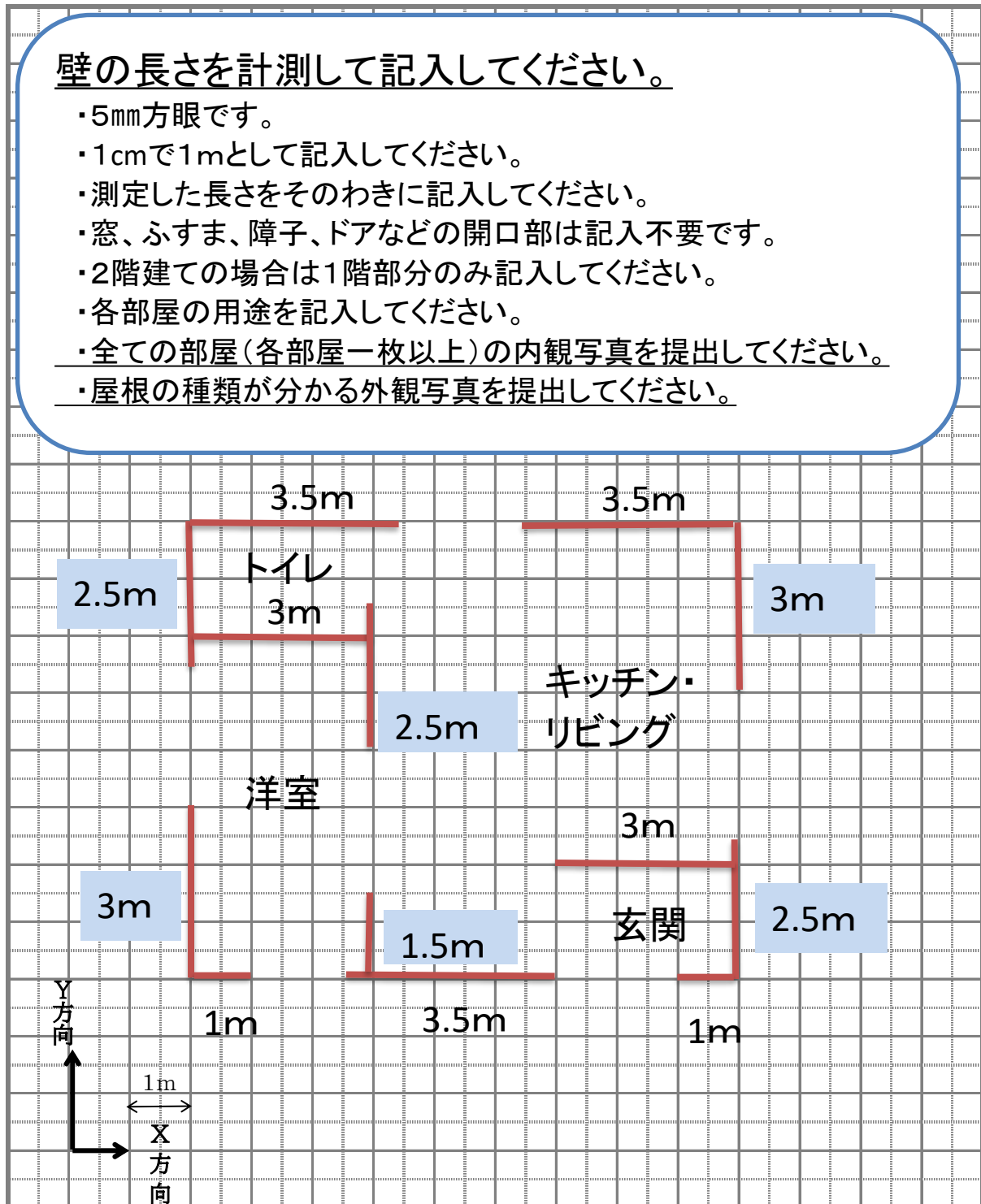
「3)一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」に該当する項目がない場合に別紙の記入様式とともに記入が必要です。
 (エクセルで作成する場合、別紙を入力していたくことで、自動で入力されます。)

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

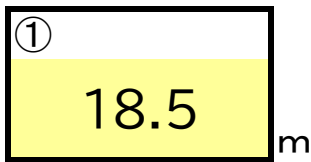
壁の長さを計測して記入してください。

- ・5mm方眼です。
- ・1cmで1mとして記入してください。
- ・測定した長さをそのわきに記入してください。
- ・窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
- ・2階建ての場合は1階部分のみ記入してください。
- ・各部屋の用途を記入してください。
- ・全ての部屋(各部屋一枚以上)の内観写真を提出してください。
- ・屋根の種類が分かる外観写真を提出してください。

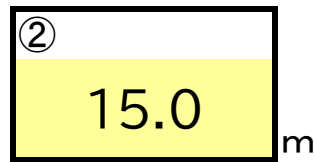


(イ) 壁の長さの合計

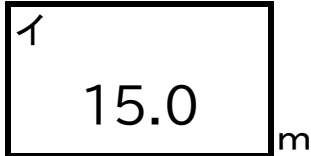
① X(横)方向



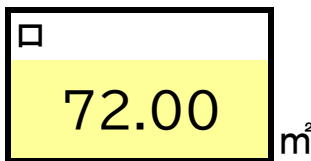
② Y(縦)方向



①②のうち小さいほうを記入してください。



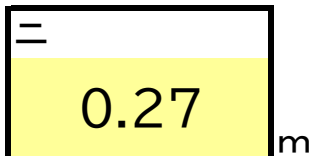
(ロ) 面積を入力してください



(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

$$\text{イ } 15.0 \div \text{ロ } 72.00 = \text{ハ } 0.21$$

(ニ) 必要な壁の長さを下の表から該当するものを選んで記入してください。



下の表から該当するものを選んで記入してください。

階数 屋根の種類	平屋	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板 葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

$$\text{ハ } 0.21 \div \text{ニ } 0.27 = \text{ホ } 0.77$$

ホ < 0.8の時
倒壊の危険性
あり